

# 令和7年和泉市教育委員会第1回臨時会

日 時：令和7年2月27日（木） 午後3時00分から  
場 所：和泉市役所3階 3A・3B会議室

## 1. 開 会

## 2. 会議録署名委員の指名について

## 3. 教育長の報告

## 4. 審議事項

議案第11号 和泉市学校教育情報化推進計画の策定について

議案第12号 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョンの策定について（別冊あり）

議案第13号 和泉市立小学校・中学校・義務教育学校の教職員一般人事について  
(非公開)

## 5. 報告事項

(1) 卒業証書の割印の廃止について

## 6. その他

## 7. 閉会

教育長の報告（令和7年2月6日～令和7年2月26日）

2月6日（木）～2月14日（金）

校長開示面談（教育長室）

2月7日（金）

KIX泉州国際マラソン姉妹都市ランナー 表敬訪問（第1公室）

2月8日（土）

いずみ市民大学まちづくり学部卒業式（和泉シティプラザ レセプションホール）  
令和6年度和泉市三師会連絡協議会・令和7年和泉市三師会新年互例会  
（岸和田グランドホール）

2月10日（月）

日本酪農協同株式会社（堺ブレイザーズ）バレーボール贈呈式（教育長室）

2月11日（火）

第60回和泉市こども会大会【1部】（和泉市コミュニティセンター）

2月15日（土）

和泉南ロータリークラブ創立40周年記念式典（帝国ホテル大阪）

2月17日（月）

令和6年度第2回和泉市男女共同参画施策推進本部会議・人権擁護施策  
本部会議（市役所）  
令和6年度第2回和泉市いじめ防止対策委員会（和泉市コミュニティセンター）

2月18日（火）

令和7年和泉市議会第1回定例会＜議案審議＞（議場）  
令和6年度市町村教育委員会教育長・学校教育指導主管部課長会議  
（アウィーナ大阪）

2月19日（水）

国際ソロプチミスト大阪南陵 性教育に関する冊子受贈式（第1公室・第2公室）  
泉北・泉南地区社会教育委員研修会（久保惣記念美術館）  
校長開示面談（教育長室）  
和泉市私立幼稚園連合会懇談・懇親会（泉大津市内）

2月20日（木）

トヨタカローラ南海株式会社・ネッツトヨタ南海株式会社 企業版ふるさと納税・  
和泉市文化芸術科学ふれあい体験事業感謝状贈呈式（第1公室・第2公室）

2月21日（金）

令和7年和泉市議会第1回定例会＜厚生文教委員会＞（委員会室）

2月23日（日）

泉北ブロック青少年指導員連絡協議会 研修会（和泉市コミュニティセンター）  
令和6年度和泉市少年軟式野球協会主催 学童合同卒団式  
（和泉市コミュニティセンター）

議案第11号

和泉市学校教育情報化推進計画の策定について

和泉市学校教育情報化推進計画を別紙のとおり策定する。

令和7年2月27日提出

和泉市教育委員会教育長 大槻 亮志

理 由

令和元年に公布・施行された「学校教育の情報化の推進に関する法律」第9条において、市町村において学校教育の情報化の推進に関する施策についての計画を定めることが努力義務化されたことを受け、本市においても、学校教育情報化推進計画を策定する必要がある。これが本議案を提出する理由である。

# 和泉市学校教育情報化推進計画(案)

令和7年2月  
和泉市教育委員会

# 目次

## 第1章 計画策定にあたって

頁

- (1) 計画策定の背景および目的 . . . . . 4
- (2) ICT活用のこれまでとこれからの取組み . . . . . 5
- (3) 今後の教育に求められる姿 . . . . . 6
- (4) めざす学校教育の姿 . . . . . 7
- (5) 今後の教育に求められる授業 . . . . . 8

## 第2章 計画の内容

頁

- (1) 和泉市の学校の情報化に係る現状 . . . . . 10
- (2) 基本的な方針 . . . . . 11
  - ①ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成 . . . . . 12
    - ・適切な学習アプリの活用
    - ・教育ダッシュボードの構築
    - ・プログラミングの授業等による情報活用能力の育成

- ②教職員のICT活用指導力の向上 . . . . . 14

- ・ 専門家を活用した支援の充実
- ・ ICT支援員による学校支援を拡充

- ③ICTを活用するための環境の整備 . . . . . 15

- ・ 子どもたちの使いやすさを重視した1人1台端末の活用
- ・ コンピュータ教室の今後のあり方について再検討し、さらなる発展へ

- ・ 端末の画面を投影する装置の整備
- ・ 誰一人取り残さない学びの保障

- ④教職員の働き方改革 . . . . . 18

- ・ 教育データを活用した教育ダッシュボードの構築
- ・ 事務作業のさらなる効率化
- ・ 生成AIを活用した業務の効率化

- (3) その他の留意事項 . . . . . 20

## 第3章 計画の評価

頁

- 指標 . . . . . 23 2



和泉市学校教育情報化推進計画

第1章 計画策定にあたって

# (1) 計画策定の背景および目的

1. 「学校教育の情報化の推進に関する法律」(令和元年公布・施行)第9条において、学校教育情報化推進計画の策定が努力義務化された。
2. 令和7年度から令和11年度を期間とする計画を策定することにより、本市の学校教育における情報化の推進に係る今後の方向性を中心に、具体の取組みイメージを共有する。
3. 学校教育情報化推進計画に基づく新たなICTの取組みを推進することで、現行の学習指導要領において学習の基盤となる資質・能力として位置づけられている「情報活用能力」の育成を図る。
4. その他、ICTの取組みにより教員、保護者の利便性向上にもつなげる。

※ICTの進展により、環境に大きな変化があった場合は、適宜改訂します。

# (2) ICT活用のこれまでとこれからの取り組み

これまで(GIGA第1期)に多く見られた取り組みとこれから(GIGA第2期)でめざす取り組み ~SAMRモデルより~

これまで GIGA第1期

これから GIGA第2期

Substitution  
【代替】

Augmentation  
【増強】

Modification  
【変革】

Redefinition  
【再定義】

アナログでできていたことをデジタルで代用

デジタルの特性を活かし学習効果を増大

授業デザインが変容し新たな学びの実践

子ども中心の学び・実社会へとつながる学びへ

教師が

- ・モニターに提示する
- ・デジタルドリルを配付する
- ・教材動画を見せる
- ・課題を配付・回収する

など

教師が

- ・考えの共有を促す
- ・共同編集をさせる
- ・コメント機能で相互評価させる
- ・推敲などの試行錯誤をさせる

など

子どもが

- ・学習や発表の手段を自己決定する
- ・学習ログを積み重ね、振り返る
- ・相互評価し、フィードバックする
- ・活用場面を決める

など

子どもが

- ・興味関心に基づいた課題を設定する
- ・最新テクノロジーを積極的に活用する
- ・学習成果と実社会の課題をつなげる

など

# (3) 今後の教育に求められる姿

**同質性・均質性**  
一律一様の教育・人材育成

**一斉授業**      **形式的平等主義**  
みんな一緒に    みんな同じペースで    みんな同じことを



**測りやすい力**      **自前主義**      **社会的・文化的バイアス**  
重視

限られた時間で  
自らの記憶や思考  
だけを頼りに  
素早く正確に解く  
力を評価

学校種、学校、  
学年、学級、教  
科などの縦割り  
構造に基づく  
教育の提供

学びや進路の  
選択を制約する  
バイアスの存在  
(女子の文理選択、  
直線的な進学だけ  
が選択肢)

→

~~同調圧力~~  
~~正解主義~~

価値創造やイノベーション創出の  
最大の敵

**多様性を重視した教育・人材育成**

**個別最適な学び**      **協働的な学び**

それぞれのペースで自分の学びを    対話を通じた「納得解」の形成



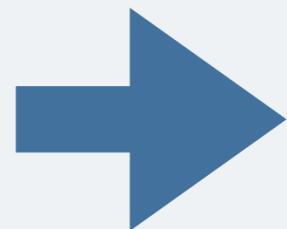
**探究力重視**      **社会とシームレスな協働体制**      **子供の主体性**

自ら学びを調整し、  
社会に生きる学び  
や試行錯誤しながら、  
自ら課題を設定し  
課題に立ち向かう  
「探究力」を評価

社会や専門的な  
力を入れて、  
一人ひとりの特性  
を重視して、その  
力をさらに伸ばす  
体制

大人の成功体験  
や経験にとらわれ  
ず、子供の好奇心  
や個人の興味・関  
心に応じた学びや  
進路選択の実現

内閣府 Society 5.0の実現にむけた教育・人材育成に関する政策パッケージより引用



実現にはICTを活用した教育の実践が必要不可欠

# (4) めざす学校教育の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育  
「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
  - ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
- # 個別最適な学び # 協働的な学び  
# 主体的・対話的で深い学び # ICTの活用



- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
  - ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
  - ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- # 教師の資質・能力の向上 # 多様な人材の確保 # 家庭や地域社会との連携  
# 学校における働き方改革 # 教職の魅力発信 # 教職志望者の増加



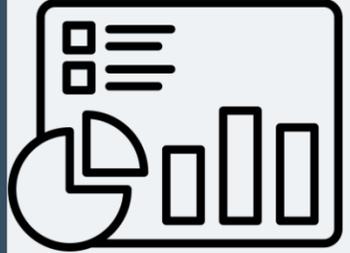
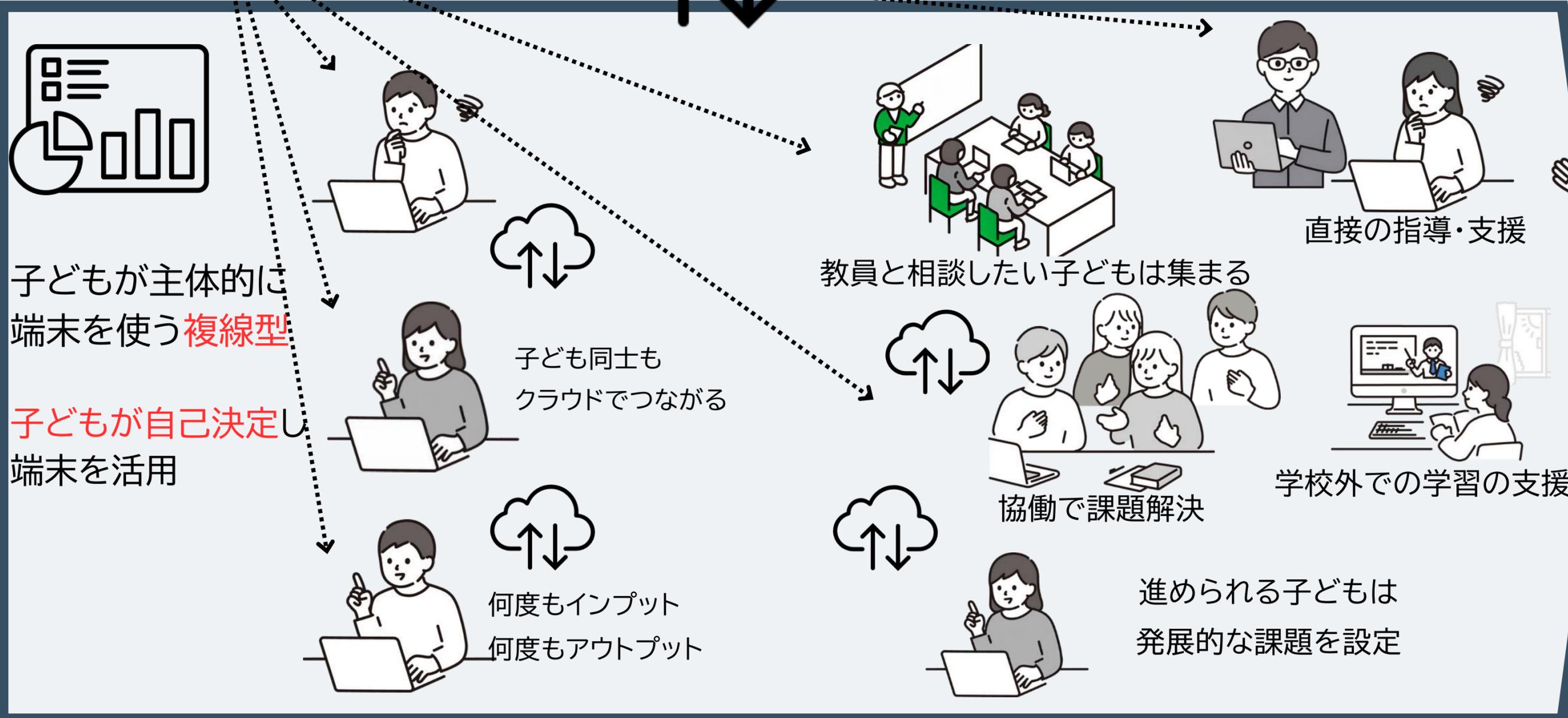
- ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
  - ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
  - ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている
- # ICT環境の整備 # 学校施設の整備  
# 少人数によるきめ細かな指導体制

# (5) 今後の教育に求められる授業

教員は子どもの状況を把握し、指導や支援

クラウド上で課題の進捗を把握  
適宜フィードバックや支援を行い  
学びを促進

子ども作成物や教材などをクラウドで共有  
子ども同士や教員がいつでも参照可能



子どもが主体的に  
端末を使う**複線型**

子どもが自己決定し  
端末を活用



子ども同士も  
クラウドでつながる



何度もインプット  
何度もアウトプット



教員と相談したい子どもは集まる



協働で課題解決



直接の指導・支援



学校外での学習の支援



進められる子どもは  
発展的な課題を設定



和泉市学校教育情報化推進計画

## 第2章 計画の内容

# (1) 和泉市立学校における情報化の現状

## 01 1人1台端末導入による教育改革と学びの進展

- 当初は端末を「使ってみる」ことから始まり、現在は「日常的な活用」に進み、授業支援ソフト等を使用したプレゼンテーションなどを行っています。
- 教員の指示で1つのファイルを同時に編集し、学びを進めています。
- 各学校では、作成した情報活用能力体系表に基づき、ScratchやViscuitを活用してプログラミング等の学習活動を進めています。

## 03 新たなICT学習環境の充実

- 令和2年度に導入した1人1台端末は耐用年数が迫り、起動や動作、充電に課題が出ています。
- 現在のコンピュータ教室の機器は令和6年度末にリース期間が終了し、返却予定であるため、既存のコンピュータ教室は廃止します。  
なお1人1台端末の整備により、コンピュータ教室の新たな活用方法を再検討する必要があります。  
(槇尾学園と(仮称)富秋学園にはコンピュータ教室を設置しません。)
- 市内全学校に設置した50インチモニターは耐用年数が迫るとともに、画面が小さく、教室の端からでは見えにくい子どももいます。

## 02 教員のICT活用に係るスキルの充実

- 1人1台端末の整備が進み、すべての教員にICTを活用して指導する能力が必要となっています。
- 令和5年度に実施した外部有識者による学校支援、GIGAスクール推進事業は一定の効果が見られました。
- 各学校に月3回訪問するICT支援員のニーズは非常に高まっており、今後も重要性が増していきます。

## 04 デジタル化による教育現場の効率化と改革

- デジタル採点システムを導入し、採点業務の大幅な業務改善が進みました。
- 保護者がスマートフォン等で欠席連絡できるデジタルツールの導入により業務効率が改善するとともに保護者の利便性も向上しました。
- 令和5年度の校務用端末更新により、校務系と学習系ネットワークを統合し、校内のどこでも校務用パソコンを操作できるようになりました。
- 校務支援システムやMicrosoft Teamsを活用し、職員会議や研修におけるペーパーレス化を進め、業務効率を向上させました。

# (2) 基本的な方針

## 情報化推進の観点

01

### 1人1台端末導入による教育改革と学びの進展

- 1人1台端末を用いた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現
- 学習者主体の授業に転換

02

### 教員のICT活用に係るスキルの充実

- 教員が最新のスキルを研究
- ICT支援員を含めた学校支援・教員支援の継続

03

### 新たなICT学習環境の充実

- 1人1台端末やモニターなどの適切な更新
- コンピュータ教室の今後のあり方について検討

04

### デジタル化による教育現場の効率化と改革

- さらなる効率化と負担軽減のため、働き方改革を支援
- 情報の集約と分析を行い、教育データの活用が必要

## 基本的な方針

### (1)ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

- 情報活用能力を育成し、授業デザインを研究します。
- 学習者主体の授業に転換し、ICTを活用した学びを研究します。

### (2)教職員のICT活用指導力の向上

- 教員が学び続ける環境を整えます。
- 今後の教育に求められる授業の姿をとらえ、子どもが自律した学習者になる授業を推進します。

### (3)ICTを活用するための環境の整備

- 子どもたちがより使いやすい端末を整備し、教育DXの促進を図ります。
- 子どもたちが学びの主体となる空間を創造します。

### (4)教職員の働き方改革

- 業務の内容を見直し、デジタルの力も生かしつつ、教職員が効果を実感できる校務効率化を促進し、教職員が子どもと向き合う時間を確保することで、教育の質の向上をめざします。

# ①ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

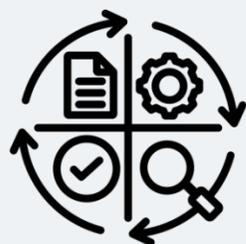
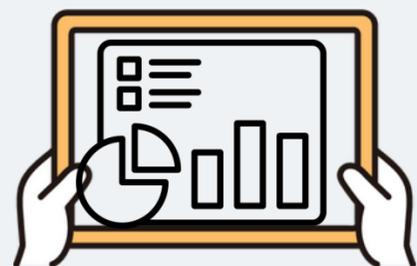
施策の方向性

## 1 適切な学習用アプリの活用

- 課題配付や画面配信ができる授業支援アプリ、共同編集を促す学習支援アプリ、基礎基本を繰り返し学習できるドリルアプリの活用を進め、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現します。
- ICTを最大限活用し、デジタルの強みを生かした学びを推進し、小学校では学習用デジタルドリルアプリ、中学校ではAIドリルを継続して使用します。
- AIドリルについては、令和7年度より中学校に限定した活用とし、中学校ではAIドリルを活用した授業改善の取組みが実践できるよう、学校支援に取り組みます。  
小学校では、令和7年度よりAIドリルの活用を廃止し、紙ドリルとAIドリルではない学習用デジタルドリルを活用し、アナログとデジタルのベストミックスの取組みを推進します。

## 2 教育ダッシュボードの構築

- 教育データを効果的に活用し、子どもが主体的に学習できる取組みを推進します。
- 子どもが、自らの学びを振り返り、広げ、伝えることが可能になる「自分ダッシュボード」の構築をめざします。



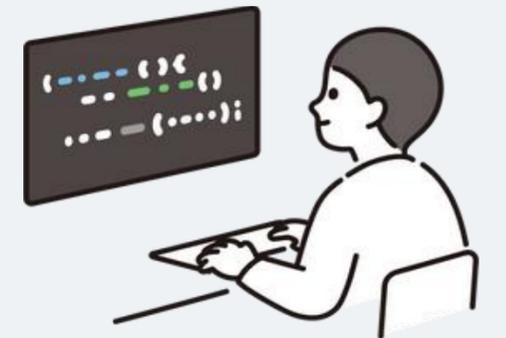
# ①ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

施策の方向性

## 3 プログラミングの授業等による情報活用能力の育成

○子どもたちが「楽しい」「役に立つ」と感じられるプログラミングの授業を展開します。

○子どもたちが学び方を習得し、自律した学習者となるために必要な「学びスキル」、子どもたちが文房具の1つとして、1人1台端末を活用する「ICTの基本操作スキル」、情報を安全に活用するために必要な「情報モラル・情報セキュリティ」、論理的思考力を身に付けるために必要な「プログラミング」の学習を通して、情報活用能力を育成します。



# ②教職員のICT活用指導力の向上

施策の方向性

## 4 専門家を活用した学校支援の充実

○令和7年度より、専門家が各学校をアセスメントし、課題を明確にした上で、実態に応じた助言や改善策を提案する「GIGAスクール構想推進事業」を市内全校で実施します。

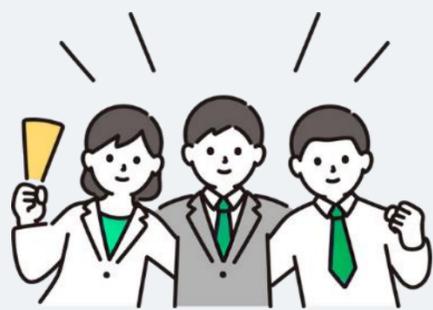


## 5 ICT支援員による学校支援を拡充

○ICT支援員の配置日数をさらに拡充することをめざします。

○教員とICT支援員が一つのチームとなり、学校がめざすこれからの授業の姿を共有します。

○ICT支援員は、授業改善に向け提案を行います。

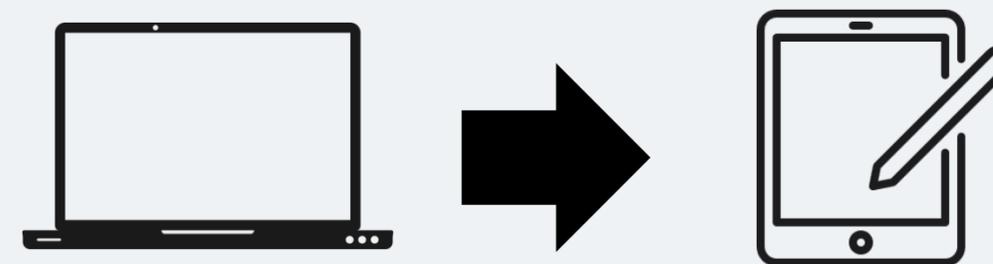


# ③ICTを活用するための環境の整備

施策の方向性

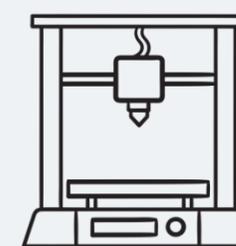
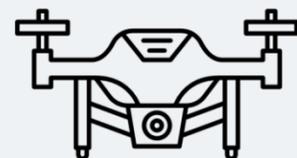
## 6 子どもたちの使いやすさを重視した1人1台端末の活用

- 実現したい学びの姿に向け、GIGA第2期ではiPad OSを採用します。
- めざす授業の形に沿った1人1台端末の活用を促進します。



## 7 コンピュータ教室の今後のあり方について再検討し、さらなる発展へ

- コンピュータ教室のアクティブラーニングルームへの再整備をめざし、子どもたちが主体的な学びをさらに進める空間を創造します。
- 高性能PC、3Dプリンター、ドローンの配備をめざし、より発展的な学習活動を可能にします。



# ③ICTを活用するための環境の整備

## 8 端末の画面を投影する装置の整備

○電子黒板機能の導入も視野に入れ、画面サイズを大型化します。

○ホワイトボードに投影する天吊りのプロジェクタを設置することをめざします。

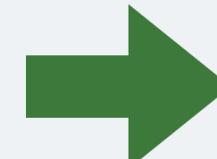
榎尾学園のプロジェクタ



小学校の現状



中学校の現状



電子黒板

黒板+プロジェクタ

ホワイトボード+プロジェクタ

# ③ICTを活用するための環境の整備

施策の方向性

## 9 誰一人取り残さない学びの保障

○オンライン授業などICTを用いて不登校の子どもや教室に入りにくい子ども、病気療養中の子ども等の学習機会を確保します。

○障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもに対して、ニーズに応じたツールやアプリ等を組み合わせた支援を行います。



# ④教職員の働き方改革

施策の方向性

## 10 教育データを活用したダッシュボードの構築

○学校内に散在するデータを一つにまとめ、可視化できる「先生ダッシュボード」を構築し、効率的な業務推進につなげます。

○学校が保有する校務系データと市長部局が保有する福祉系データを活用した、効率的かつ効果的な子ども支援のプロセスの構築に取り組みます。



## 11 事務作業のさらなる効率化

○ICTの活用により、学習評価や成績処理、学校行事の準備や運営、進路指導事務、学校通信等の作成、関係機関へのアンケート回答等の事務作業を効率化します。

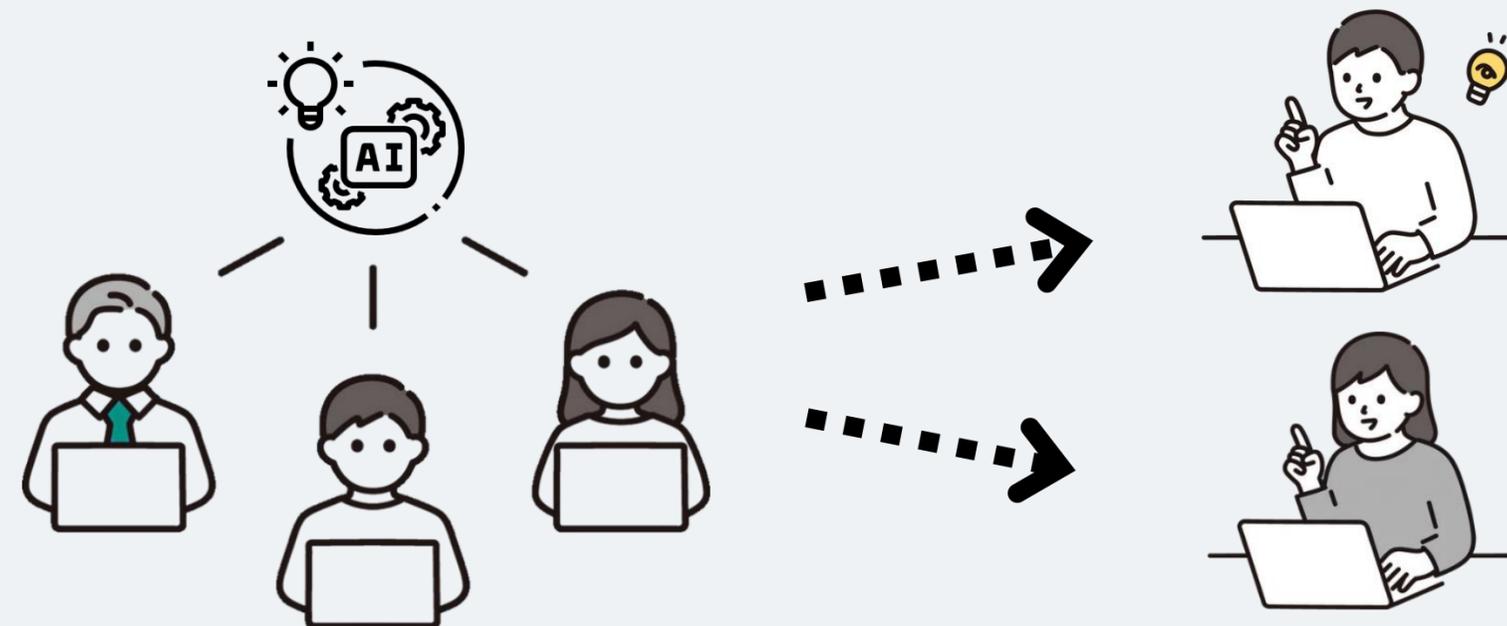


# ④教職員の働き方改革

施策の方向性

## 12 生成AIを活用した業務の効率化

- 文部科学省のガイドラインを踏まえ、教職員が校務で生成AIを利用することで、業務効率の向上をめざします。(ex:小テストや学級通信などのたたき台、日程調整や感想の集約等)
- 子どもの生成AI利用については、使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得ることを理解したうえで、発達段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討します。



# (3) その他の留意事項

## 1: 学校と教育委員会事務局間のデータ連携の強化

---

- 教育委員会事務局の指導主事も学校教員と同じ校務支援システムを活用し、情報の共有化を図ります。
- 教育委員会事務局は学校におけるICTの活用状況の把握に努め、情報の共有、システムの改良の意識を保持します。

## 2: 保護者とのコミュニケーションツールの充実

---

- 保護者からの連絡について、就労環境や相談内容の多様化に鑑み、相談体制にICTを活用することも検討していく必要があります。

## 3: 学校図書館のデジタル化、市立図書館とのデータ連携

---

- 榎尾学園には、将来的な市立図書館との連携を見越したシステムを導入しています。
- 令和9年度に開校を予定している(仮称)富秋学園では、学校図書館の地域開放も計画しており、市立図書館とのデータ連携についても関係部局と協議を進めています。
- 他の学校においても、データベース化、市立図書館との連携等の研究を進めます。

# (3) その他の留意事項

## 4:ICT活用による子どもの健康面への影響に関する配慮等

---

- 子どもの健康面への影響に関する配慮等については、ICT機器の画面の見えにくさの原因やその改善方策、姿勢に関する指導の充実など、学校と家庭が適宜情報共有を図った上で、両者が連携して取り組む必要があります。

## 5:セキュリティ

---

- 児童生徒の個人情報や学習データの取り扱いには、適切なアクセス制限を設けます。
- 情報セキュリティに関する定期的な研修を実施し、教職員の意識の向上を図ります。
- 教育情報セキュリティポリシーについて、学校ごとに自己点検を実施し、運用状況を見直します。

和泉市学校教育情報化推進計画

## 第3章 計画の評価

# 指標

## 項目

(1)ICTを活用した児童生徒の  
資質・能力の育成

(2)教職員のICT活用指導力の  
向上

## 指標

◇調査名:全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

項目:「5(1,2年生で)年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を  
活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」において、  
「できる」と回答した児童生徒の割合

目標値:小6・中3:60%以上(令和11年度)

現状値:小6:市46.1%、全国46.9% 中3:市39.5%、全国39.1%(令和6年度)

◇調査名:全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

項目:「5(1,2年生で)年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を  
どの程度使用しましたか」において「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合

目標値:小6・中3:40%以上(令和11年度)

現状値:小6:市18.8%、全国25.3% 中3:市34.3%、全国31.0%(令和6年度)

# 指標

## 項目

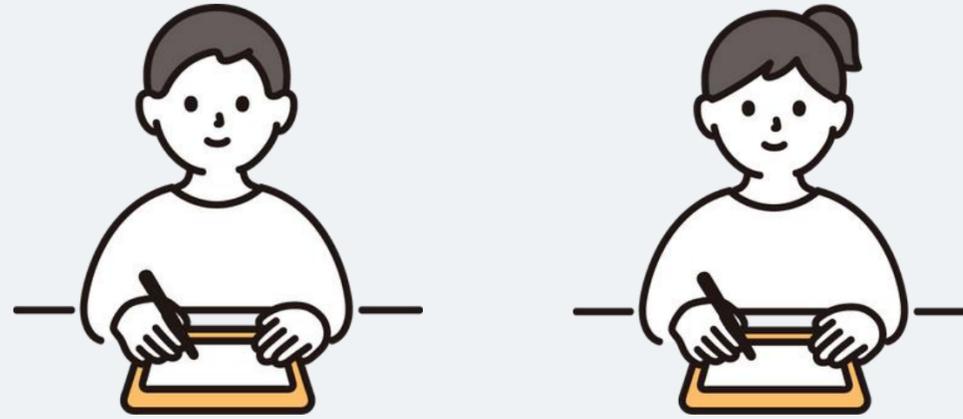
(3)ICTを活用するための  
環境の整備

- ◇GIGA第2期の端末更新(令和7年度)
- ◇(仮称)富秋学園におけるアクティブラーニンググループの整備
- ◇ 高性能PC、3Dプリンター、ドローンの配備

## 指標

(4)教職員の働き方改革

- ◇調査名:「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト(学校設置者向け)」  
項目:全20項目の最も校務DXが達成されている状態を30点とする600点満点  
目標値:400点(令和11年度)  
現状値:市、370点 大阪府平均343.6点(令和6年度)
- ◇調査名:教職員アンケート(市独自)  
項目:「ICT機器を活用することで、業務の効率が上がった」  
目標値:肯定的な回答割合:80%以上(令和11年度)



和泉市学校教育情報化推進計画  
-Izumi City School DX Plan-  
令和7年2月

和泉市教育委員会事務局  
Izumi City Board of Education

## 議案第12号

「和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン」の策定について

「和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン」を別冊のとおり策定する。

令和7年2月27日提出

和泉市教育委員会教育長 大槻 亮志

### 理 由

和泉市久保惣記念美術館は、開館40周年を過ぎ、施設及び設備の老朽化並びに展示スペース及び収蔵庫の狭隘化が課題としてある。一方、和泉・久保惣ミュージアムタウン構想による美術館のあるまちとしてのエリアブランディングやデジタル・アーカイブ化、文化観光など、新たな役割も求められている。このことから、開館50周年（2032年）を迎えるにあたり、まずはミッションを示し、10年後の姿を描き、政策コンセプトを明確に示すことで、和泉市が誇る美術館として更に魅力を高め発展・存続させるため、建物のリニューアルを見据えた運営ビジョンの策定を行う必要がある。これが本議案を提出する理由である。

## 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン（案）パブリックコメント 募集結果

- 1 意見等募集期間：令和6年12月28日から令和7年1月21日
- 2 意見等提出者数：個人5名
- 3 意見等提出件数：5件
- 4 ご意見・ご提案の概要及び市の考え方（類似の意見があった場合は類似する意見を集約しています）

コメント者 NO	頁	章 (条)	節 (項)	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
1	31	3章	3 (4)	31ページ 伝えたい人に 「伝える」広 報・発信	和泉市に住んで15年程ですが、近くに久保惣記念美術館がある事も理由の一つです。当時は美術館の他にあまり何もありませんでしたが、最近はららぽーとやコストコ、物流倉庫等、賑やかになっています。インバウンドを取り込む事も重要ですが、近くの商業施設に来ている人を取り込むアイデアがあればと思います。美術館だけでなく、日本庭園や茶室、コンサートホールもあり大好きな施設なので、この先も地域に愛される施設であって欲しいと願っています。	周辺には、商業施設、宿泊施設、桃山学院大学もあることから、相互に連携を深めることで、今後とも地域に愛される美術館になるよう努めてまいります。
2	34	3章	(7) ⑤	美術館の運営 について	リニューアルするなら、ゆるキャラを作ったり、グッズ販売、カフェ増設など、見るだけではない楽しみがあるほうが良いと思います。	リニューアルの際には、飲食スペースの検討も踏まえ、費用対効果を踏まえた多様な検討を行い、来館者の満足度が向上できるよう取り組んでまいります。
3	35	4章	1	35ページ インバウンド 戦略について	和泉中央駅と関空とを結節するリムジンバスの発着時刻と美術館前を通る路線バスの和泉中央駅発着時刻を調整して貰うように南海バスに申し入れるなどして限られたダイヤでも最大の効果を発揮するように協議すべき。また和泉中央駅に適切な数のロッカーを配置しミュージアムタウンへは身軽で来場できるように工夫すべき。展示品の付近にQRコードを設置しスマートフォンで読み込むと多言語で作品の解説が得られるようにすべき。	他の事業者様への働きかけのみならず、リニューアルの際には館内ロッカーの増設、デジタル技術を活用した展示解説の多言語化など、費用対効果を踏まえた多様な検討を行い、来館者の満足度が向上できるよう取り組んでまいります。

コメント者 NO	頁	章 (条)	節 (項)	タイトル	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
4	—	—	—	資料を読んで。また何回か来館しての感想です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前あったカフェを再開してほしい。</li> <li>・前に来館した時、来たはいいが帰りのバスがなくて困っておられる方がたくさんいた。</li> <li>・耳で聴く案内があればいいのにといつも思います</li> <li>・看板の上に立っているネコ、あのネコは本当にステキなのであのネコのグッズを発売してほしいです。</li> </ul>	リニューアルの際には、飲食スペースの検討を行います。音声ガイドの導入やミュージアムグッズの充実など、費用対効果を踏まえた多様な検討を行い、来館者の満足度が向上できるよう取り組んでまいります。
5	—	—	—	久保惣記念美術館の運営について	残念に感じるのは、【KUBOSO】との赤い看板？オブジェ？です。事故で破損した後に改めて設置されたと思いますが、建物外観や展示物には似つかわしくなくアンバランスだと感じます。アートや芸術としては理解が難しいです。デザインや表示に何か意味や狙いがあるのであれば、市民に広報していただけたらと思います。	久保惣記念美術館をイメージさせる古美術の世界と現代美術としてのアートサインを融合させたパブリックアートとして、平成30年3月に設置し、広報いずみ5月号において特集ページにて、広報いたしました。なお、KUBOSOの赤い英文字の上に立つネコは、収蔵品である歌川国芳の浮世絵版画「荷宝蔵壁のむだ書（黄腰壁）」に描かれているもので、「大でき猫」と呼ばれ、愛されています。“大でき”とは「とても良い」「上出来」という意味です。

令和7年2月 19 日

和泉市教育委員会 様

和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会  
委員長 井上 敏

和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン(案)について(答申)

令和6年7月5日付け和泉美第175号にて諮問のありました「和泉市久保惣記念美術館運営ビジョンの策定」について、別添「和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン(案)」のとおり、答申します。

今後のビジョン策定にあたっては本答申を十分尊重されるとともに、下記の事項について十分配慮され、ビジョンを推進することを要望します。

記

1. 使命(ミッション)、基本方針(ビジョン)の実現に向けて

- ・ 「多様な価値観・心の豊かさを育む美術館」、「未来の和泉を織りなす美術館」、「まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館」の使命のもと、和泉市美術館条例第1条の設置目的「美術に対する知識及び教養の向上並びに芸術の創造及び普及に資する施設として、美術館を設置する。」に加え、まちづくり、国際交流、来訪促進、産業、福祉等関係機関との連携協力、地域活力の向上に資する美術館運営を推進されたい。
- ・ 基本方針「多様な主体が美術館のリソースを最大限に使いこなすことで美術館とまちが融和した質の高い空間を形成し、和泉の価値と創造性を高めます。」に基づき、13,000点の多種多様なコレクションを始めとした有形・無形のリソースの有効活用、まちと美術館と融和した質の高い空間(ミュージアムタウン)の形成を推進されたい。

## 2. 重点的取組について

### (1) 『美術館を知ってもらいより多くの方に来て頂く広報宣伝活動とインバウンド戦略』について

- ・ より多くの方に魅力的で多彩・豊富な収蔵品を有する美術館を知って頂く広報宣伝と、これらの作品を主力とした展覧会の充実及びインバウンド戦略を進められたい。
- ・ 大阪・関西万博の開催や IR の開業予定を見据え、インバウンド需要に対応した展覧会の開催と戦略的なプロモーションを実施されたい。

### (2) 『関係機関との連携協力により美術館のリソースを最大限に使いこなす』について

- ・ まちづくり、教育、観光、企業、国際交流及び医療福祉など文化行政の枠を超えて、地域の多様な主体との連携及び協力を行うことで、より多様で豊かな体験の提供を進められたい。
- ・ 美術館を応援し利用する市内企業と「(仮称)企業家プレミアムクラブ」の創設や桃山学院大学と(仮称)キャンパスメンバーズ制度創設の検討を進められたい。
- ・ 和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアムやアートギャラリー河野邸との連携協力により、「和泉・久保惣ミュージアムタウン構想」を推進されたい。

### (3) 『リニューアルの推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館』について

- ・ 大きく変化した社会環境を背景とし、多くのコレクション(市の文化財産)を最大限に活かした展覧会を開催し、グローバルな文化財産として世界に発信するため、また、より多くの方が美術を享受し、人生が豊かに思えるようにするため、リニューアル基本構想、基本計画、基本設計の策定を推進されたい。
- ・ 美術館の長寿命化に併せて、寄贈敷地の有効利用と浮世絵版画を主力にした収蔵品を活かした展覧会の開催に対応するリニューアルを推進されたい。
- ・ 関係機関との連携協力の取組みにより、美術館リソースを最大限に活用すると共に、ふるさと納税の活用などの資金確保や、入館料の見直し及びその他の収益確保に努められたい。

### (4) 『グローバルな文化財産として、他館との連携強化と世界の美術館との交流促進』について

- ・ 美術館の持つグローバルな文化財産を共有し合うネットワークの形成、これまでの活動で培った世界の美術館との交流をさらに促進されたい。
- ・ 国内の美術館とは、これまでの繋がりを基にし、次代を担う学芸員とのネットワーク構築と共に、展覧会の開催や防災協力など幅広い連携を進められたい。

- ・ 海外の美術館で実施した調査や交流内容について、市民をはじめとして広く伝え、その成果を美術館の運営に活かしていただきたい。

(5) 『組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営へ』について

- ・ 本ビジョン達成に向けて、組織マネジメントを強化し、当館の規模やスタッフ等の実情を考慮した効率的かつ効果的な運営手法について検討をされたい。
- ・ 展覧会業務と広報宣伝やプロモーション業務を主としたマネジメント力の強化を図られたい。
- ・ 施設管理業務の総合発注、広報宣伝業務と広告などと組み合わせた広報業務について、専門性を持つ民間事業者への一括発注など、財団の職員が直接行う業務を整理し移行されたい。

3. 重点的取組に係る優先順位について

- ・ 重点的取組においては、『1.美術館を知ってもらいより多くの方に来ていただく戦略的な広報宣伝活動とインバウンド戦略』、『2.関係機関との連携協力により美術館を最大限に使いこなす』について、優先的に取り組んでいただきたい。
- ・ また、優先的に進める取組に関連して、『3.リニューアルの推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館』について、推進されたい。

## 第1章 ビジョンの策定について

- 昭和57年に開館し、令和4年度には開館40周年を迎え、この間コレクションも約500点からおよそ13,000点となり、日本・東洋古美術を中心として、国宝2点、重要文化財29点のほか西洋近代美術を擁する国内有数の美術館となりました。
- 一方、収蔵品の増加による展示スペースの不足、展示機能の向上の必要性及び収蔵庫の狭隘化、施設及び設備の老朽化が著しく、展示・収蔵施設の全面的な更新が不可欠になっています。
- 和泉市が誇る文化財産としてさらに魅力を高め発展し、存続するため、10年後を見据えた将来像を描き、目的や方針を明らかにし、活動指針となる運営ビジョンを策定するものです。

## 第2章 運営ビジョン策定の背景－和泉市久保惣記念美術館の歩み

### 1. 沿革と概要

- 明治期からおよそ100年間に渡り綿紡織業を中心に経営を続け、昭和52年に廃業した「久保惣」より、国宝、重要文化財を含む約500点と土地、建物、運営基金を地域文化の発展と地元への報恩の意を込めて和泉市に寄贈されました。
- 和泉市の中央部に位置し、昔ながらの木造家屋が残る落ち着いたまちなみが形成された地区内にあり、松尾川沿いの素晴らしい自然環境に包まれています。
- 敷地面積は約5,000坪あり、美術館本館・新館、西棟、市民ギャラリー、市民ホール、茶室、市民創作教室、研究棟で構成されています。

### 2. これまでの取組と特色

- 収蔵品数はおおよそ1.3万点あり、浮世絵版画、やまと絵、工芸等が主なものです。コレクションとして、久保惣や久保家からの寄贈品（第一次～第六次久保惣コレクション）の他、中国近代絵画の定静堂コレクション、中国の工芸品の江川コレクションがあります。
- 展示事業(常設展・特別陳列・特別展)、教育普及事業、市民ギャラリー事業、市民ホール事業、市民創作教室の活動、和泉・久保惣ミュージアムタウン事業を実施しています。



富嶽三十六景 凱風快晴 葛飾北斎

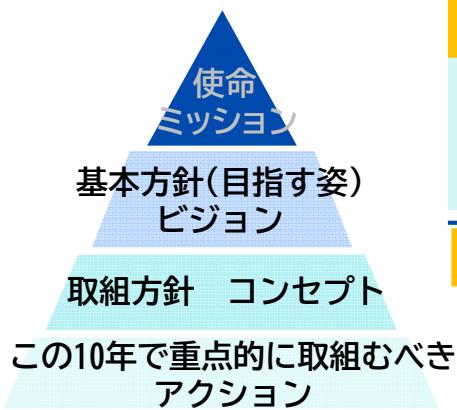


花飾りの女  
ピートルルーオーキースト・ルノワール

### 3. 成果と課題

- 地域経済を支えた地元企業からの寄贈という歴史があり、収蔵品の数、質、多彩さは国内有数で、常設展、特別展に定評があります。茶室や庭園など空間がもつ魅力もあります。
- 和泉・久保惣ミュージアムタウンとしてパブリックアートやアートギャラリーなど新たな魅力が創出されました。
- 大阪・関西万博を契機としたインバウンドのさらなる集客や美術館を核としたまちづくりなど多様な主体との連携が必要です。
- 施設・設備のリニューアルや来館者の属性の偏り、平日の来館者数の確保に加え、学芸員や運営財源の確保等のマネジメントの課題があります。

## 第3章 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン



**ミッション** 美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割とは？

- ①多様な価値観・心の豊かさを育む美術館
- ②未来の和泉を織りなす美術館
- ③まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館

**ビジョン** 10年後美術館が目指すべき姿とは？

多様な主体が美術館のリソースを最大限に使いこなすことで美術館とまちが融和した質の高い空間を形成し、和泉の価値と創造性を高めます。

**コンセプト** 美術館のビジョンを達成するための具体的な取組の方針

#### 根幹・本質の磨き上げ

1. 美術品の収集、保存・活用：美術品収集と充実、適切な保存、デジタルアーカイブの推進・活用
2. 調査・研究の充実：専門性を高める調査・研究、人材確保、成果を伝える出版物の発行
3. 展覧会・教育普及の充実：展覧会の充実、他館との連携、展示環境の整備、学校との連携等

#### 根幹・本質を伝える

4. 伝えたい人に「伝わる」 広報・発信：市広報掲載、SNS等の充実、関係機関への情報提供等

#### 地域、社会との多様な関わり

5. 多様な主体との連携協力、パートナーシップ：教育機関・企業家・和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアム・国際交流機関・医療福祉機関との連携
6. 地域活性化（地域貢献、交流・来訪促進）：各施設を活用した来館者層の拡大、インバウンド向けの取組

#### 根幹・本質を支える基盤整備

7. 経営、環境、施設整備：収益の向上・確保、来館者数の確保、マネジメント強化と民間活力の活用、施設リニューアル等

## 第4章 ビジョン推進のために(重点的取組)

運営ビジョン達成のために、まずは次の5つの項目について先行的に取り組みます。

### 1 美術館を知ってもらいより多くの方に来て頂く広報宣伝活動とインバウンド戦略

【取組の一例】

- ・大阪・関西万博開催やIRの開業を見据えた展覧会開催と戦略的プロモーションの実施
- ・浮世絵版画を主力にした展覧会の開催と、対応する展示室のリニューアルの推進

### 2 関係機関との連携協力により美術館のリソースを最大限に使いこなす

【取組の一例】

- ・美術館を応援し利用する「(仮称) 企業家プレミアムクラブ」や桃山学院大学と「(仮称) キャンパスメンバーズ制度」の創設検討
- ・小学校の美術館活用プログラムや中学校美術部とのコラボ事業の検討

### 3 リニューアルの推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館

【取組の一例】

- ・リニューアル基本構想の策定 ・ふるさと納税など資金確保やその他の収益確保

### 4 グローバルな文化財産として、他館との連携強化と世界的美術館との交流促進

【取組の一例】

- ・国内美術館とのこれまでの繋がりを基に次代を担う学芸員とのネットワーク構築
- ・海外の美術館で実施した調査や交流内容を広く伝え、その成果を美術館運営に活かす

### 5 組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営へ

【取組の一例】

- ・市学芸員による調査・研究・収集・展覧会業務の充実及び多様化するニーズへの取組
- ・施設管理業務や広報業務を専門性のある民間事業者への一括発注など、美術館運営を担う一般財団法人和泉市文化振興財団の職員が直接行う業務の整理

## 議案第13号

令和7年度和泉市立小学校・中学校・義務教育学校の教職員一般人事について

令和7年度和泉市立小学校・中学校・義務教育学校の教職員一般人事については、別紙のとおりとする。

令和7年2月27日提出

和泉市教育委員会教育長 大槻 亮志

## 理 由

「和泉市立学校教職員人事基本方針」に基づき、令和7年度和泉市立小学校・中学校・義務教育学校の教職員一般人事を行うため。

## 参考資料

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育委員会の職務権限）

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

3 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。